

# 天北地域で細断サイレージ用に優先すべき草地、どう分ける？

## 概要 Abstract

天北地域の草地では、土壌還元程度により降雨後の作業のし易さ、主要牧草の維持のし易さを評価することができます。また、土壌ち密度により草地の潜在的な生産性を評価することができます。

こうした簡易な評価手法を組み合わせることで、大規模に草地を管理するTMRセンター等が優先的に利用すべき草地を判断することができます。

## 成果 Results

### 【細断サイレージ用に優先すべき草地の評価区分】

評価区分		評価区分の意味		
第一指標	第二指標		第一指標	第二指標
還元反応判定値 (深度0-20cm)	貫入式硬度計によるち密度 (深度7.5-12.5cm) 低い ← → 高い	優先度 (マーク)	圃場の乾き易さ	高収量の期待度
1	◎ ← → ○	高い ◎ やや高い ○	乾き易い	期待できる あまり期待できない
2	□ ← → △	中 □ やや低い △	やや乾きにくい	期待できる あまり期待できない
3	▲	低い ▲	乾きにくい	(評価の対象外)

- ①還元反応判定値：ジピリジル液による呈色（赤色）反応で、1：なし、2：弱、3：鮮明、を意味する。
- ②降雨後2日目の刈り取り面積割合は、還元反応判定値1で22%、同2で8%、同3で0%と、判定値が小さいほど早く刈り取られる傾向があった（TMRセンター2カ所3事例の1番草での平均）。
- ③リードカナリーグラス被度は、還元反応判定値1で17%、同2で27%、同3で37%と、判定値が高まるほど5%水準で有意に高まった。
- ④貫入式硬度計によるち密度の高い、低いのは2MPaを目安とする。

## 普及 Dissemination

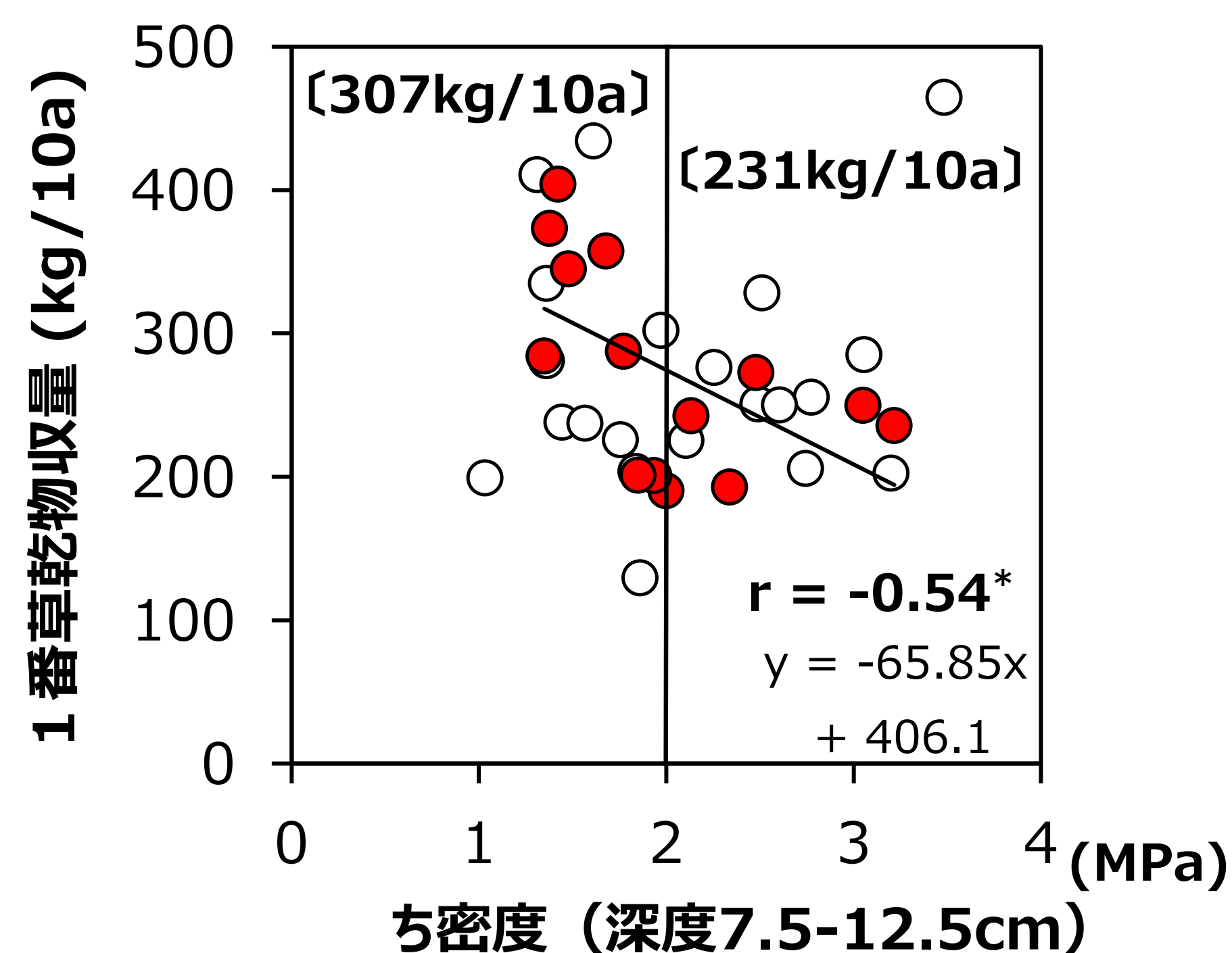
- TMRセンター等の大規模草地管理組織がバンカーサイロ向け細断サイレージ用草地の利用計画を策定する際の支援ツールとなります。
- 天北地域を中心に道北の鈹質土、泥炭土草地に適用できます。
- 更新後の経過年数が短い場合、還元反応判定値が過小評価となる可能性があるため、更新年、更新翌年の草地は評価対象から除きます。

## 土壌還元反応の呈色



※ジピリジル液（ジピリジル1gを10%酢酸溶液500mlに溶解）を噴霧する。写真は判定値3。

## 【ち密度と1番草乾物収量の関係】



- ① ● オーチャードグラス (OG)、チモシー (TY) の合計被度50%以上の草地。○：同50%未満。
- ② 〔 〕はOG、TYの合計被度50%以上の草地の1番草乾物収量。2 MPa未満(307kg/10a)と以上(231kg/10a)に有意差あり。
- ③ 相関係数 (r) と近似直線は、● のデータで作成した。

## 連絡先 Contact

上川農業試験場天北支場  
地域技術グループ  
01634-2-2111  
tenpoku-agri@hro.or.jp